

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 09-027

PDCA	事務事業名	防犯活動事業	部課等名	総務部 防災交通課 交通 防犯担当	担当 内線等	中村 286	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第4章 安全で快適に住み続けられるまち					
		節： 第1節 安全・安心な社会の形成					
		基本施策： 2. 防犯対策					
		単位施策： (1) 防犯活動の推進					
	根拠法令等	半田市安全なまちづくり条例					
	対象・目的	半田市安全なまちづくり条例に基づき、活動主体である半田市防犯協会を中心に関係機関と連携し、地域の防犯活動を実施する。また、犯罪を未然に防止するため、自治区等と連携し、青色回転灯を装備した青色防犯パトロールなどの防犯活動を積極的に実施し、市民の防犯活動の高揚を図る。					
	目的を達成するための手段・活動内容	自治区と連携・協働し、自主防犯活動、安全なまちづくり活動を推進するとともに、市民等の防犯に対する意識高揚のための啓蒙活動を推進する。また、地域の実情に応じて青色回転灯装着車による防犯パトロールを実施するとともに、気軽に参加することのできる防犯パトロール活動の周知や不審者情報等の広報を行う。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績		H30年度	R1年度	R2年度	単位
		①青色防犯パトロール講習開催回数		9	12	13	回
		②連れ去り防止防犯教室実施園数		25	26	25	園
		③防犯出前教室		18	19	7	回
		事業費		1,420	1,791	1,500	千円
		人件費		2,830	3,374	2,309	千円
		総事業費		4,250	5,165	3,809	千円
		活動単位当たりのコスト		H30年度	R1年度	R2年度	単位
	①市民1人あたりの防犯活動事業費		36	44	32	円	
	成 果	成果指標		H30年度	R1年度	R2年度	単位
		①幼保、こども園への防犯指導	実績値	25	26	25	回
			目標値	28	26	26	
		②防犯講話及び防犯教室の開催	実績値	18	19	7	回
			目標値	10	10	12	
		実績値					
		目標値					
C 課題の整理		観点別評価	必要性		有効性		効率性
	①市の関与の妥当性		妥当	④上位施策への貢献	中程度	⑦コスト削減余地	ある
	②市民ニーズ		高い	⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更	
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ある	⑧受益者負担適正化余地	ない
	事業の評価・課題	B 令和2年9月に半田警察署と協定を結び、ドライブレコーダーを「動く防犯カメラ」として活用する「半田市ドラレコ隊」を結成するほか、普段の生活のなかで防犯に気を配る「半田市ながら防犯パトロール隊」を結成し、地域の見守りの目を増やす取り組みに注力し、まち全体の防犯力の底上げを図った。また、子どもの防犯意識高揚のため、市内保育園での連れ去り防止防犯教室や不審者対応訓練を実施した。一方、自転車盗や多様化する特殊詐欺被害が継続的な課題となっているため、引き続き、行政、関係団体、市民が一体となった防犯活動に取り組む。 刑法犯認知件数：令和2年472件（令和元年647件）対前年比△175件△27%					
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	現状維持 市内刑法犯発生件数は減少しているが、依然として自転車盗や特殊詐欺が多発しているため、研修会の開催や、パトロール資材の提供を行い、防犯ボランティア活動の活性化を図るほか、「半田市ドラレコ隊」「半田市ながら防犯パトロール隊」の活動を周知し、まち全体の防犯力の底上げを図る。 また、警察や事業所等の関係機関と連携し、コロナ禍における新たな防犯啓発活動に取り組む。					
	令和3年度の目標	成果指標				目標値	単位
		市内刑法犯発生件数				447	件